



やまゆり

学校だより

令和5年10月19日
51号
学校長 杉本賢二

校訓 「和の心」
学校教育目標 「社会に貢献しながら自立する生徒の育成」一気づき・考え・実行するー
校内研究重点 「個別最適な学びと協働的な学びで、主体的に学習する生徒を育成する」

教育重点目標 「確かな学力の育成」・「生徒の良さを伸ばし、課題を改善する連」

「令和のやまなし教育活動モデル事業」の公開研究会を開催しました

公開授業として、「国語科の異学年交流」を実践しました。指導者は、天野美加先生です。

本校では、「個別最適な学びと協働的な学びで、主体的に学習に取り組む生徒を育成する」ことを研究主題として取り組んでいます。その実現のために、「学級の安定と活性化を教職員組織」で実現することを副題としています。

山梨県教育庁義務教育課の指導主事「富高勇樹」指導主事と山梨大学名誉教授の須貝千里先生に指導を頂き、道志村教育委員会をはじめ山梨県内の教育関係者にご参加していただきました。義務教育課をはじめ、多くの先生方から「一生懸命学ぶ生徒の姿に感動した。」、「国立の附属の中学校でないとできないような高度な学習を公立中で実践」した挑戦の姿勢も素晴らしい等の感想を頂きました。本校の研究は、研究主任の高村江里子先生が担当しています。

国語科の指導天野美加先生



約60名の参観者の中を意見交流する生徒



○天野先生は国語科の授業を3年連続で公開 実践レポートを東京学芸大学で発表予定

○他の教職員も分担して授業を支えました。来賓・電話対応の上芝先生・受付の深澤先生

義務教育課 富高書道主事



小学校佐藤校長 教科書会社 他校国語科教員



鳴沢小教職員 同じ事業の学校です



学習に集中する生徒の姿



小学校 都築教頭 富士東部 佐藤主幹



先進的な学習の視察 福井県会議員さん



交流の学びを発表する 佳太さん 祿太さん



雅也さん



考えを発表する景己さん



各学級の安定と活性化→全校異学年交流→全校の特別活動での成果発表

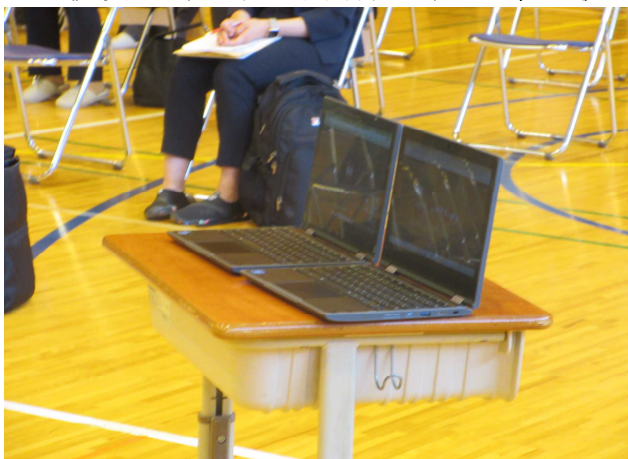
生徒会長 景己さんの学級の安定と主体性に関する説明

研究会参加の方々



太鼓演奏は新潟県の粟島浦小中の生徒が視聴

3年生の雷太鼓 気持ちを込めた演奏



多様性を認め合い・協働しながら創り上げた全校太鼓



国語科の指導を頂いた山梨大学名誉教授 須貝千里先生の講評

授業は「交流」における生徒の質問とその答えの説明の様子が、まさに「個別最適な学び」と「協働の学び」の具体の姿を伝えていました。

グループに聞こえる範囲の声のやりとり(大きな声ではダメなのです。)、このこと自体が2つの学びの統合した姿を示していましたね。

深澤完興先生(山梨県の国語教育の重鎮の先生)がごらんになっていたのなら、『大乘起信論』により、風が吹くから波が立つのではなく、水があるから波が立つ、そうした姿の現れだ、と。「体用論」です。(須貝が「注」を記すなら、「水」は「児童」、「波」は「学び」、「風」は「先生」を代入して、となります。今でも、示唆に富むものの見方・考え方です。)

「学び」は、「因果」の想定として準備されていきますが、「因果」の姿そのものの現れとしてではなく、「体用一体」の姿の現れなんだよ、と。

教材研究は必要だが、授業はそれをなぞることではなく、授業での生徒の現れこそを受け止めることが求められているということです。学習の質、その豊かさが学びの姿そのものに現れているということです。

あるいは、完興先生は能『翁』の二人の「翁」の現れとして、今日のグループ学習(交流)の意義を語るかもしれません。二人の出会いとの中に「千歳」(せんざい)としての学習者がいた、と。

「語り」への注目はそのための方法であり、「手立て」でもあります。わたくしはそう位置づけています。これ、まさに「令和」の学びの姿です。

授業と「対」になったの提案、「太鼓」の演奏も素晴らしかった。

大きな響き、「形」の演技。これが「型破り」の授業と「対」になって、という「学校の姿」(カリキュラム・マネジメント)の提案に出会い、素晴らしい一日でした。

※赤字の強調は杉本による

「安定」と「活性」の大切さとその両立の難しさに挑んだ、こうした自覚のもとに2つの統合を目指した取り組みに触れることができました。未踏の峰に挑んだ取り組みに出会うことができました。

達成像の鮮烈なインパクト。これは、日本の教育の理想、「その能力に応じて」、「ひとしく」(憲法26条、教育基本法3条)という課題、崇高な、この困難さに挑んだものです。

たくさんの学びがありました。ただただ感謝するのみです。ありがとうございます。

この成果、「七里」を超えて、響け！ 伝われ！

この願いは実現するでしょう。日本の教育の希望の実現として、です。わたくしはこの願いとともに生きて行こうと思います。その勇気が与えられました。

須貝千里

山梨大学名誉教授 須貝千里先生 日本国語教育学会山梨理事 遠山先生



